月間報告書　2024年9月分

学籍番号　　留学先　ポルト大学

氏名　　留学期間　2024/09/20～2025/03/31

年次　2年次　　留学区分　派遣留学

Ⅰ．受講時間数

No	履修科目(原語名)	履修科目(日本語名)	受講時間数(分)	授業形態
1	Introdução à Cultura Portuguesa	ポルトガル文化入門	360	授業
2	Cultura Japonesa Contemporânea	現代日本文化論	360	授業
3	História do Teatro Português	ポルトガル演劇の歴史	270	授業
4	História da Língua Portuguesa	ポルトガル語の歴史	360	授業

Ⅱ．授業内容

No.1

今回の授業ではレコンキスタについて学びました。この授業では主にポルトガル文化について深く学んでいきます。パワーポイント中心で授業が展開されていき少しスピードが速いですが先生のポルトガル語が比較的ゆっくりなため理解がしやすいです。日本の他大学の留学生の方々と協力して授業の理解に努めています。先生がとても細やかな方で質問するとわかりやすく解説してくれるため理解することが出来ています。

授業の評価方法として、年内に二度行われる試験にて合格した場合に最終試験が免除されます。もしも不合格になってしまってもおおよそ年内の試験と似た問題が出題されるらしいです。

No.2

この授業では主に戦時中のプロパガンダ映画や明治時代に作られた映画を扱います。事前に宿題として各自映画を見てきて授業では議論や解説を聞きます。今回は「陸軍（Rikugun)」についてその時代の社会背景と各自で感想や議論などを行いました。授業では先生が難しい単語や表現を丁寧に解説してくださります。日本文化を海外の人々の視点から見るという機会はあまりないので、この授業を受講することに決めました。

授業の評価方法としてレポートと最終試験があります。レポートに関しては先生が指定した記事に関しての質問と大島渚監督の映画を各自で選び自分の考えや時代背景について書きます。最終試験は主に授業全体の理解度と自分が書いたレポートについて聞かれるそうです。

No.3

この授業ではポルトガル演劇についてやポルトガル演劇の父であるジル・ヴィンセンテに関して学びます。先生の語りが中心ですが、演劇に関する文献を読んだり解説することが多いです。先生のポルトガル語がかなり早めですが周りの学生と協力しながら授業の理解に努めています。

授業の評価方法として演劇に関する授業の内容を問う試験のみのため、日々復習して試験に臨んでいきたいです。

No.4

日本でいう古典を学んでいるような感じと似ていると思います。最終学年が対象の授業なため「音韻学」や「ラテン語」に関する事前知識がある前提で授業が展開されます。授業は主にスライドを使用して展開されるためわからない単語などを調べながら授業を受講しています。事前に宿題としてポルトガル語成立に関するラテン語の資料を読んでおく必要がありますが調べながら読んでいます。

授業の評価方法として年内に指定された文献に対する考察について書くレポートと最終試験が課されます。最終試験に関してはポルトガル語の成立に関して説明するようです。事前にしっかり準備して試験に臨んでいきたいです。

Ⅲ．生活編

ポルトガルに入国するまでのおおよその流れとして　ノミネーション→出願＋履修登録→入学許可証→宿泊所手配→航空券手配＋海外保険申請→ビザ申請→出国　だと思います。

（出願）

ポルト大学は出願時に授業を選択しなければなりません。学科を問わず授業を受講できるためかなり多くの授業があります。時間があまりなく焦ることも多いと思いますが、履修期間内であれば授業の取り消しや追加ができます。授業の取り消しはサイト上で簡単にできますが、授業の追加には担当教員のサインと出願所を書き換えるために大学側からのサインが必要になってきます。

実際に授業を受講してみると難易度がかなり高かったり、自分の学びたいことじゃなかったりすることが多々あります。そのため、なるべく出願時に興味のある授業を把握しておき、受講した上で、履修変更の期間内に取り消す授業や追加する授業を決めることを強く推奨します。

（ビザ申請）

ビザ申請には入学許可証、航空券、海外保険、宿の契約書、パスポート、無犯罪証明書＋無犯罪証明書のアポスティーユ証明書が必須になってきます。ビザの発行には45日ほどかかります。

自分は特にトラブルがなくビザ申請を進めることが出来たのですが、書類の不備により出国する日時を変更しないといけない人もいたので書類の不備等がないように注意が必要です。

（ポルトガルでの生活）

9月は朝が寒く昼以降があつい日が多く寒暖差が激しかったです。食料などは主に近くのスーパーやショッピングセンターで購入しています。ただ果物や野菜等は八百屋で半額以下で売られていることが多いのでいろいろなところに足を運んでみるといいかもしれません。また、電車で20分ほどの距離にアジア食材店があります。ネギやニラ・調味料・ラーメンなどが売っています。

（大学での生活）

事前に指定した日時にオリエンテーションなどが開催されます。自分で情報を収集できるように何か困ったことがあればすぐにオフィス等に聞けるようにした方がいいかもしれません。また、個人で指定した日時に学生証や大学限定グッズがもらえる最終オリエンテーションがあります。大学の学生証をいただけますが、授業の出席の為に使用するため、もしも不具合があった場合、地下１階のテクニカルオフィスに行きみてもらったほうがいいかもしれません。授業によって出席率が大事になってくるのもあるため不具合があった場合先生に一声かけておくことも大事です。

日本の他大学の友達と協力して授業を受講するときもあると思います。互いに助け合って留学を楽しいものにしていきたいです。

月間報告書　2024年10月分

学籍番号　　留学先　ポルト大学

氏名　　留学期間　2024/09/20～2025/03/31

年次　2年次　　留学区分　派遣留学

Ⅰ．受講時間数

No	履修科目(原語名)	履修科目(日本語名)	受講時間数(分)	授業形態
1	Introdução à Cultura Portuguesa	ポルトガル文化入門	720	授業
2	Cultura Japonesa Contemporânea	現代日本文化論	720	授業
3	História do Teatro Português	ポルトガル演劇の歴史	900	授業
4	História da Língua Portuguesa	ポルトガル語の歴史	900	授業

Ⅱ．授業内容

No.1

【授業内容】

-修道院文化、言語文化、大衆文化について

-中世の修道院と歴史学

-中世の文化や文献の保存について

-14世紀のヨーロッパ聞き

-歴史学の進化：フェルナン・ロペスの年代記の分析

-アビス王朝時代の文献

-オウリケ神話について

-「アフォンソ・エンリケス王の年代記」についての分析

【授業について】

パワーポイントが中心で授業が展開されています。事前に歴史的文献を読んで授業を受ける形です。

わからないことがあったらすぐに先生に聞くことが出来るので授業の理解がしやすく、ポルトガルの文化を文献や神話などから学ぶことが出来るのでとても興味深いです。再来週には試験があるます。しっかり復習し、試験に臨んでいきたいです。留学生にはテスト前に英語で授業内容をまとめたスライドと補習授業が行われます。

No.2

【授業内容】

-リスボン・ノヴァ大学の先生の講義

-映画「原爆の子」について

-映画「狂った果実」について

【授業について】

11月の頭までに、先生に指定された文献を2つ、映画「切腹」を理解したうえで70~100語以内に質問を作成する課題がありました。質問をより明確にするためには、先生に指定された以外の論文や本・映画などを見る必要があります。私は先生にお願いし、論文や本・映画を送ってくださいました。英語やポルトガル語で論文を読むのはとても難しかったですがとても興味深い内容が多く、無事課題を終わらせることが出来ました。

11/4にはリスボン・ノヴァ大学の先生が日本文化に関して講義をしてくださいました。課題で作成した質問も聞くことができたので日本文化についての考え方や日本文化の在り方を考えるいい機会になりました。

授業では事前に映画を見ておき授業内で理解し議論していく形で授業は展開されます。自分の視点だけでなく、他の生徒の視点もすごく勉強になるためとても楽しい授業だと思います。

No.3

【授業内容】

-Gil Vicente 「Auto da Barca do Inferno」についての分析やその時代背景について

-André Crabbé Rocha「Cancioneiro Geral」について

【授業について】

授業では今回 Gil Vicenteの「Auto da Barca do Inferno」がかなり長い作品なためこの一か月の授業はそれについての内容が多かったです。出てくる単語がかなり難しく、事前に読むだけでなく演劇についての知識も必要になるためかなり下調べをしながら授業を受けています。ポルト大学の文学部限定の授業なためか演劇が本当に好きな方がたくさんいらっしゃるのでその方たちにも聞きながら授業に臨んでいます。先生がとても親切にしてくださるのでわからないことはなるべくするに質問するようにしています。

No.4

【授業内容】

-言語史と西洋ロマンス語の子音の変化について

-9月までのまとめと結論

-ラテン語の口語・文語の変化について、俗ラテン語について

-俗ラテン語の変化についてと口蓋化現象の説明

-文献の解説、外来ラテン語の変化について

月間報告書　2024年10月分

学籍番号　　留学先　ポルト大学

氏名　　留学期間　2024/09/20～2025/03/31

年次　2年次　　留学区分　派遣留学

-ラテン語からポルトガル語への進化について

-俗ラテン語の発音の特徴について

-いままでの授業の結論と俗ラテン語の特徴について

-言語形成期についてとイベリア半島の文献についての解説

-882年のラテン語・ポルトガル語の文章の分析

【授業について】

授業では辞書で出てこない単語が多く理解に苦しむことが多いですが、先生がすべての資料をポータル内に添付してくださるため復習しながら少しづつ理解に努めています。わからないことが正直かなり多いですが、言語の変化や進化についてだんだんと理解することが出来とても楽しいです。授業内では積極的に質問をしている生徒が多い印象でその人たちの質問もとても興味深いのでメモを取り授業全体の理解に努めています。12月にはこの授業ではテストとレポートがあるため今から準備をしていきたいと思います。

Ⅲ. 生活編

10月は雨の日が多い印象でした。そのためレインコートと傘を持ち歩く必要があるかと思います。

生活必需品は基本的に近所のスーパーで購入しています。ポルト大学の学生カードを持っていると校舎内の食堂で2.9€ほどで食べることが出来ます。また、入学証明書とパスポートを提示すると発行時の3€のみでAndanteカードを発行することが出来ます。（毎月機械もしくはお店で更新しないといけないので注意です。）このカードを持っているとポルト市内のバス、地下鉄が乗り放題なので本当に観光や遊びに行くときに重宝しています。

授業は初めは何をしたらいいか、何を言っているのか正直わからずくじけることが本当に多かったですが、だんだんと慣れてきていると思います。ポルト大学の先生は親身に話を聞いてくれたり、助けてくれる方が多いため大変なことも多いですが、充実した毎日を送っています。めげずにこれからも頑張っていきたいと思います。

月間報告書　2024年11月分

学籍番号　　留学先　ポルト大学

氏名　　留学期間　2024/09/20～2025/03/31

年次　2年次　　留学区分　派遣留学

Ⅰ．受講時間数

No	履修科目(原語名)	履修科目(日本語名)	受講時間数(分)	授業形態
1	Introdução à Cultura Portuguesa	ポルトガル文化入門	720	授業
2	Cultura Japonesa Contemporânea	現代日本文化論	900	授業
3	História do Teatro Português	ポルトガル演劇の歴史	720	授業
4	História da Língua Portuguesa	ポルトガル語の歴史	630	授業

Ⅱ．授業内容

No.1

-ウリッケの戦いの奇跡について

-ドン・アフォンソ・エンリケスの年代記の分析

-アルカセル・キビールの戦いについて

-試験準備

-テスト

-Sebastianismoについて

-Joaquimismoについて

-第五帝国とJoaquimismoについての分析

11/18日には試験がありました。

留学生は電子辞書・紙の辞書を持ち込むことが出来ます。3つの作文から一つの文章を選びA4 1枚以上書くことが求められています。授業前のスライドや授業のノートをまとめていればクリアできる試験でした。私は留学生の友達と勉強会などをしてなんとか合格することが出来ました。試験では、ウリッケの戦いの奇跡についての歴史学的な分析と時代背景・授業で習った戦いに関する文献について詳しく書きました。論述式のテストのためいかに詳しく書けるかに加え自分自身の視点も大切になります。

日本とはまた異なる歴史の試験のため緊張しましたが、先生方が時間を作って教えてくださったおかげで理解することが出来ています。

No.2

-映画「巨人と玩具」について

-映画「お早よう」について

-映画「砂の女」について

-映画「白日夢」について

11/1までに質問を考える課題の提出がありました。11/4にはリスボン・ノヴァ大学から日本文化を教えてらっしゃる先生の講演会が授業内にありました。現代日本文化論を受講していない学生や先生方もいらっしゃったので自分とはまた違う視点の意見や質問を聞くことが出来てとても充実した講義でした。

今月は授業時間数が多く、たくさんの映画を見て議論する機会がいつもよりも多い気がしました。1月の頭に試験があるので、気を引き締めて勉強していきたいです。

No.3

-13世紀～17世紀の文学・演劇の特徴について

-Luís de Camõesについて

-文献「Auto de El-Rei Seleuco 」の分析

-ポルトガルのイエズス会学校について

-ポルトガルの演劇実践における重要性

-悲劇の特徴について

- 文献「ジョアン王太子の死の悲劇」の分析

-演劇における神話の伝え方・特徴に関して

授業では主に悲劇について様々な文献を用いて授業が行われていました。正直この授業は度の授業よりも難易度が高く理解するのにすごく時間がかかります。三年生次が対象の授業ということもあり、演劇の歴史を知り尽くした生徒さんが多い印象です。スライドと先生の語りがメインの授業ですがスピードがかなり速いので理解するのがとても難しいですが、試験に向けてしっかりと対策していきたいです。

No.4

-中世ポルトガル語の特徴について

-文献「Demanda do Santo Graal」の分析

-中世ポルトガル語についての今までの結論

-中世を通じての特定の形態素の意味論的および語用論的な変化

-中世ポルトガル語: 歴史言語学における時代区分によって引き起こされる問題

-16 世紀の文法学者による当時の言語に関する情報とポルトガルの言語問題について

月間報告書　2024年11月分

学籍番号　　留学先　ポルト大学

氏名　　留学期間　2024/09/20～2025/03/31

年次　2年次　　留学区分　派遣留学

-古典と現代的ポルトガル語について

体調不良により授業を一度欠席していましたが主に中世ポルトガル語の分析がメインの月でした。12月の中旬にレポート提出と試験があります。レポートは主にたくさんある中世の文献を分析するものです。

かなり難易度が高く書き上げれるか不安ですが、授業のスライドを復習しながらやっていきたいです。この授業ではスライドがメインに進められますが、言語学を専攻している学生さんたちが多く、質問一つ一つが興味深くとても刺激的な授業です。

Ⅲ. 生活編

ポルトガルに来て2か月がたちました。この時期は試験が多く体調を崩す機会が多く何度か体調を崩して授業を欠席してしまう時期がありました。

週末は友達と出かけたり、ショッピングへ行ったり充実した毎日を過ごしております。Andanteカードのおかげでいろいろなところに電車・バスで行くことが出来るのでポルト市内を散策するのにはとても重宝しています。また、寒くなってきているので日本から持ってきた湯たんぽを使って寒い夜を快適に過ごしています。たまにポルト大学で本の市場がやっていてお手頃な価格で本を買うことが出来るので、もしチャンスがあれば参加してみるといいかもしれません。11月は雨があまりなかったですが、とても寒い日が続いていました。日本からはヒートテックなどを持参していたため体調管理は出来ているつもりでしたが、疲れや課題のストレスもあるため残りの留学生活は体調を整えて楽しく過ごしていきたいと思います。

月間報告書　2024年12月分

学籍番号　　留学先　ポルト大学

氏名　　留学期間　2024/09/20～2025/03/31

年次　2年次　　留学区分　派遣留学

Ⅰ．受講時間数

No	履修科目(原語名)	履修科目(日本語名)	受講時間数(分)	授業形態
1	Introdução à Cultura Portuguesa	ポルトガル文化入門	540	授業
2	Cultura Japonesa Contemporânea	現代日本文化論	450	授業
3	História do Teatro Português	ポルトガル演劇の歴史	540	授業
4	História da Língua Portuguesa	ポルトガル語の歴史	540	授業

Ⅱ．授業内容

No.1

-iluminismoについて

-iluminismoとヨーロッパの諸作品に関しての分析

-ポンバル侯爵がポルトガル文化に与えた影響

-試験に関しての質疑応答

-期末試験

試験ではsebastianismoやjoanismoについて問われる問題があった。自分の知っていることを書けば書くほど評価される試験のため対策がしやすかった。授業では主にiluminismoについて学ぶことが主だった。

No.2

-映画「東京オリンピック」について

-映画「ガメラ対大魔獣ジャイガー」について

-映画「遠い一本の道」について

-映画「お葬式」について

授業では先生の語りが中心で行われていました。提出課題では自分たちが事前に選んだ大島渚監督の映画を通して、彼が日本文化にどのような影響を与えてきたのかを1100~1300文字でまとめて提出する課題がありました。先生に事前にメールで作品や文献などをお願いするとPDFで送ってくださったり、Batalha Centro de CinemaというBolhão 駅の近くの映画館の中にある図書館に大島渚監督についての文献がたくさんありました。そのため、本を読むなどして課題をスムーズに進めることが出来ました。1月に試験があるため、復習して試験に備えていきたいです。

No.3

-Fidalgo Aprendiz

今月は主に「Fidalgo Aprendiz」という作品の分析を主にしていました。ノートをとるのに追いつかないことが多く、授業の理解に苦労していますが、先生方やポルトガル演劇に詳しい受講者の方に質問したりして授業についていけるように努力しています。

No.4

-16 世紀の文法学者による、当時の言語に関する情報。

-16 世紀以降の進化。 16 世紀以降の音声の発展に関する観察

-期末試験に関する質疑応答

-期末試験

-レポートに関する質疑応答とレポート提出

今月は全体の復習をするような形で授業が展開されました。レポートではいくつかある作品の中からこの作品が中世に書かれた作品であることを分析し、意見を書き提出するというものでした。実際に中世のポルトガル語を読み、言語学的な分析方法で文章の特徴を指摘しましたが、出てくる単語や文献がかなり難しく完成させられるかが不安でしたが、なんと書き上げることが出来ました。

試験では問題がいくつかあり、その中から自分の好きな問題を選ぶ形式でした。私は「16世紀以降のポルトガル語の変化」を選択しました。留学生は紙辞書のみ持ち込みが許可されます。

Ⅲ．生活編

今月は２つの試験とレポート提出があったため、かなり忙しかったです。しかし、うまく調節して週末は友達とショッピングへ行ったり、旅行へ行ったりしていました。ポルトは基本出来に12月に試験を受け合格した場合1月にある最終試験が免除されるケースがあります。そのため、友達と協力して課題や試験勉強をしていました。

11月と比較してポルトの気候はすこし暖かくなってきたように思えます。クリスマスには友達のご家族のクリスマス会に参加させていただき、ポルトガルならではの温かく、どこかホッとするクリスマスを迎えました。あと一か月の留学期間を後悔がないように全力で楽しんでいきたいです。

月間報告書　2025年1月分

学籍番号　　留学先　ポルト大学

氏名　　留学期間　2024/09/20～2025/03/31

年次　2年次　　留学区分　派遣留学

Ⅰ．受講時間数

No	履修科目(原語名)	履修科目(日本語名)	受講時間数(分)	授業形態
1	Introdução à Cultura Portuguesa	ポルトガル文化入門	0	授業
2	Cultura Japonesa Contemporânea	現代日本文化論	90	授業
3	História do Teatro Português	ポルトガル演劇の歴史	180	授業
4	História da Língua Portuguesa	ポルトガル語の歴史	0	授業

Ⅱ．授業内容

No.1

12月の試験に合格したため、試験は免除されました。

この授業は基本的に試験に出席し、授業をしっかり聞いていれば、先生がきちんと評価してくれるため、受講してみてとても有意義な講義ばかりでした。

No.2

1月は試験がありました。

授業内で与えられたテーマをもとに試験が行われるため、授業で学んだことと自分自身の見解を述べることが出来れば合格することが出来ました。また、レポートの評価が５０％のためレポートをしっかりこなすことが出来れば合格できる科目です。

先生方も友達もとても暖かく、一番ポルトガル語の上達に貢献してくださった授業でもありました。質問や疑問をどんどん先生に聞くことを強くお勧めいたします。

No.3

この授業が本試験と再試験を受験しましたが、合格するかがわからない状況です。この授業はポルトガルの方でも合格が難しい授業となっているので、授業についていくだけで精一杯でした。もしも授業を選択する際は受講の対象学年と必要な知識をみておくことを強く推奨いたします。

No.4

12月の試験で合格をいただいていたため、授業や試験がありませんでした。

かなり難易度の高い科目ではありますが、提出物や授業に出席し、自分の見解をしっかり持つことがこの授業の合格につながるかと思います。

私は元々言語学に興味があったため、この授業を通して今後も学びを深めていこうかと思います。

Ⅲ．生活編

ポルト大学への留学ももう今月で終わりになると思うと、あっという間で自分の将来について考えることが出来るとても貴重で、有意義な留学でした。以下にこの留学をとおして注意しておくことやポイントを述べさせていただきたいです。（今後留学する方にすこしでも私と同じ間違えをしないため、またお役に立てれば幸いです。）

1.履修に関して

履修登録は先生と相談することはもちろん受講の対象年を見ることを強く推奨いたします。三年生は最高学年のため今までの学年の授業を受けないと理解できない内容のものが多いです。もしもどうしても興味のあるものの場合、先生や周りの方々に質問したりするといいと思います。また、なるべく多くの授業を履修登録が変更できる1～2週間の間に受講できる限りの授業を試してみることをお勧めします。

2.生活に関して

旅行や生活をする際に、割り勘などをする場合にアプリを使う人がかなり多かったです。WISEやMBwaysなどの海外のお金の郵送アプリ（paypayのようなもの）を入れておくことをおすすめいたします。

嵐など雨が続くことが多いので、日本の大きめの折り畳み傘を持参した方がいいと思います。海外の傘はかなり壊れやすいため、お気を付けください。

ポルトは木製の家具がある場合に虫が出る可能もあるため、日本の虫よけや虫よけ関連のものを持参するのをお勧めします。私の知人などはダニの被害にあった方が多いため、ダニ避けシートを持っていくことをお勧めします。また、ダニの被害にあった場合の薬や虫除けを持参した方がいいと思います。

ポルト大学は授業についていけなかった場合に先生によっては試験をレポートに変更してくれる先生もいらっしゃるので、なにか困ったことがあればポルト大学のインターナショナルオフィスや先生方に相談することをお勧めします。

ポルト大学にはBanco de Apointamento (FLUP)という過去問や過去資料のポータルサイトがあります。そこに授業によっては資料や過去問が掲載されているので、それをもとに授業をしたり参考にしたりすると学びが深まるかと思います。

生活をしてみて、もしもできれば一人用の炊飯器を持参することを推奨します。鍋で調理するとかなり時間がかかりうまくできないことがあります。

留学を通してみて、自分一人で行ったことのない国で生活していく大変でしたが、生活に慣れていくにつれて周りとたくさん接し、ポルトガル語を使う生活は今以上になく幸せでした。難易度の高い授業もたくさんありましたが、相談し、行動していくことで自分の向き不向きを理解することもできました。ポルトガルは陸続きのため、留学中の半年間は2か国に旅行へいきました。ポルトガルだけでなく様々な国の価値観や言語に触れることも留学の醍醐味でもあると思います。自分の価値観を砕き、新たな自分にさせてくれた半年間であると思いました。